

視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 徳岡真紀

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

	会派代表者	掛田勝彦	経理責任者	増田誠宏
視 察 議 員	徳岡真紀			
期 間	令和5年 1月10日（火）～ 令和5年 1月12日（木）			
視 察 先	全国市町村国際文化研究所			
視 察 用 務	政策実務研修「図書館とまちづくり」			
概要及び所見	<p>JIAM 政策実務研修 「図書館とまちづくり」</p> <p>●研修の目的:公共施設としての図書館の機能と役割について、近年そのあり方が見直されつつあります。公共施設の集約化、複合化が進められる中、まちの賑わいや再生を目指す地域活性化の核として図書館が注目されており各自治体で様々な取組が進められている。この研修では、地域で必要とされる図書館とはどのようなものか、サービスの拡充はもとより、まちづくりの主体となる人が集う交流拠点として、どのような役割を果たすことができるのか、その可能性について 考える。</p> <p>●図書館の現状と課題を学び、まちづくり活動の拠点としての図書館のあり方について</p> <p>ポイント:住民をはじめとした様々な主体が、積極的に図書館の運営等に参画している事例から、成果や課題棟を学び、今後の取組について考える。</p> <p>演習による討議を通し、図書館を活かしたまちづくりを考え、実践に繋げる</p> <p>初日は「図書館を活かしたまちづくり」と題して県立長野図書館前館長の平賀研也氏が様々な図書館の事例を紹介された後グループで図書館とまちづくりの接点について意見交換。</p>			

2日目は事例紹介の後に演習。グループで住民の求める図書館とは、自治体にとってふさわしい図書館とはというテーマで意見交換。  
3日目に、2日目の討議を発表。私たちのグループでは図書館を「多様な人をつなぐハブ」として発表した。

今回の研修に参加した目的として、図書館が公共施設の中でも老若男女が集うとても面白い場所であることから、コミュニティセンターなどとは違ったまちづくりの拠点として、または近年増加している不登校等の問題を抱える子どもたちの居場所としても十分活用できる可能性があるのでは、と感じたため、様々な図書館の事例やあり方などについて学びを深めたいと考えた。また、学校図書館との関わりについても先進事例を学ぶためであった。結果として、その目的にぴったりの研修であった。初めての自治体職員向けの研修に参加させて頂いたが、現場の行政職員、図書館司書、図書館長など具体的に現場にいらっしゃるからこそその課題や取組を伺うことができ非常に満足度の高い研修だった。

「図書館は  
地域社会をはぐくむモノ  
そのものが地域をつくる場所」  
といわれた平賀氏の言葉が印象に残っている。

知の拠点としての図書館という考え方だけでなく、図書のもつ多様性を活かして、様々な企画が可能な老若男女が集うことができるまちづくりの拠点としても、これからの図書館のあり方は非常に可能性があると確信した。

本は、多様なジャンルがあることから、多様な分野に関心を持つ住民と、福祉、子育て、アート、スポーツなどの振興を結びつけることができる。行政や関係機関と協働で図書館を中心に、住民福祉サービスを行うことも可能であることがわかり、図書館と地方行政の抱える課題、市民の課題解決の拠点としてもこれから、議会で様々な提案していきたいと考える。